

## WB実修所への参加にあたって(ビーバースカウト課程)

青森県連盟指導者養成委員会

ウッドバッジ実修所は隊指導者訓練の上級訓練として位置づけられ、ウッドバッジ研修所を修了し最低1年間のプログラム展開を経験した隊指導者を対象とし、「プログラム推進能力の向上」に特化した訓練が実施されます。

また、ウッドバッジ実修所は

第1教程：課題研究～部門別に設定された課題に取り組む

第2教程：基本訓練～部門別の集合訓練・3泊4日の野営

第3教程：実務訓練～自隊で取り組んだ結果を報告する

により構成されますが、第2教程では、スカウティングの本質の理解を高めるために高度の班野営を体験することから、第2教程へ進むためにはスキルトレーニングを修了することが必須となっています。

ビーバースカウト隊の隊長としてのプログラム推進能力向上を目的とするこの訓練は、ビーバースカウトの訓育に責任を持つ隊長の皆様には、本来あるべき姿のスカウティングについて理解を深め、自隊のスカウトに良質のプログラムを提供していくために、是非参加していただきたいものです。

また、すべての教程やスキルトレーニング等においてトレーナーが直接支援しますので、まずは団委員長へ参加の意思表示をしてください。

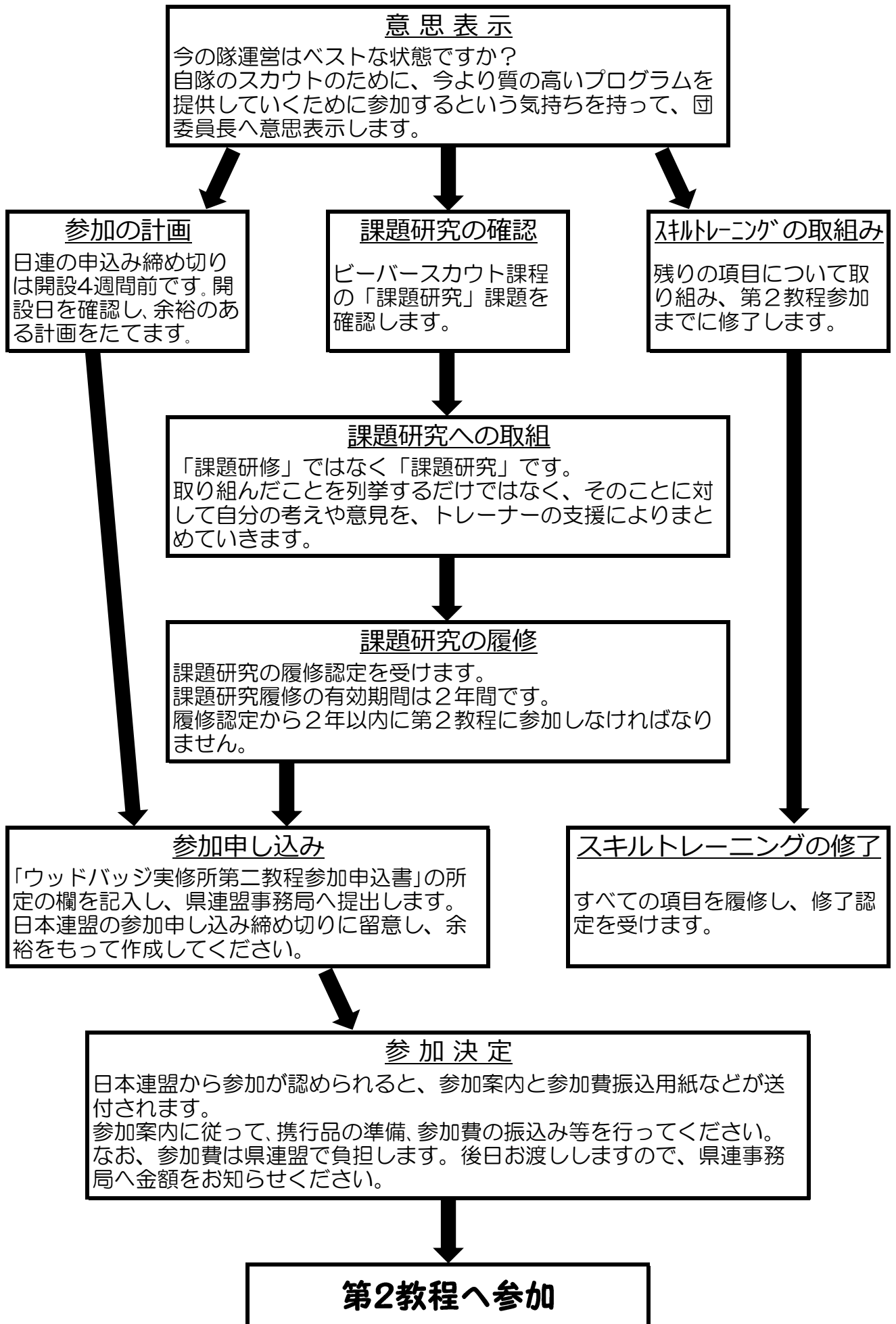
### 団委員長へのお願い

課題研究やスキルトレーニングの履修にはある程度の日数を要します。

またすべてトレーナーの支援により進めていきますので、参加の意思を確認した後、できるだけ早い時期にトレーナーまたはコミッショナーへご連絡ください。

第3教程の取り組みについては第2教程の中で説明されるので、ここでは、第1教程・第2教程について説明します。

まず、第2教程へと至る流れについて説明します。



次に、課題研究への取組について説明します。

第2教程は、自隊の課題、問題点の改善や解決を図り、自隊の隊運営、特にプログラムプロセスに反映させることに意義があり、自身が所属している部門の実修所へ参加することを前提としています。

また、第2教程で効率の良い学習をおこなうため、以下により事前に課題研究に取り組んでいただきます。

課題研究の履修は、トレーナーが認定します。

- 課題1**
- ① 自隊における保護者のニーズを調査し、集約してください。
  - ② 自隊のスカウトを観察し、スカウトが興味ある事柄を列挙してください。

(1) 課題1では、スカウトが楽しめ、保護者に受け入れられるプログラムを考えるときの前提となる、スカウトや保護者のニーズの集約をおこないます。

(2) ①は保護者のニーズの集約です。

ビーバースカウト年代にあっては、「子どもにこんなふうに育て欲しい」といった保護者のニーズ、願いが特に重要となってきます。

(3) ②はスカウトのニーズの集約です。

この年代の子どもたちは、自分たちのニーズというものがあまりはっきりしていないので、直接スカウトにニーズを聞くよりも、スカウトの状態をよく観察し、興味のあること、夢中になっていることなどを見つけることで、ニーズを見つけることができます。

(4) これらを箇条書きで記述してください。

- 課題2** 課題1のニーズ等にビーバースカウト隊の活動の目標を加味し、自隊で実施する隊集会実施計画書（1回分）を作成してください。

(1) 課題2では、課題1で集約したニーズをうけて、2時間程度の仮想隊集会を考えます。

この時、この年代の特性やニーズにビーバースカウト隊の活動の目標を加味することは、もともとのニーズをどのようにして実りのあるものに発展させて、豊かな（スカウトにとっては楽しい、教育的効果のある）プログラムにしていけるのかに関わってきます。

(2) 隊長ハンドブックに掲載されている隊集会実施計画書の例を参考に作成してください。

**課題3 自隊の年間プログラムを評価し、問題があれば改善策とその理由を示してください。(年間プログラムを添付してください。)**

- (1) 課題3では、自隊の年間プログラムにより、活動内容、活動目標、進歩課程などについてビーバースカウト活動に照らし合わせて見直し、自隊での問題点、課題を洗い出します。
- (2) 年間プログラムを評価し、何が、どこが問題なのか、改善すべき点は何か等について考えます。そのことによってスカウトにどのような効果が期待されるのかということも併せて考えます。
- (3) 次の表を参考に、隊集会ごとに一覧表を作成してください。

	現 状	問題点	改善策	得られる教育的効果
○月○回目				
~~~~~				
○月○回目				

- (4) 当該隊集会実施計画書を添付してください。

**課題4 ① 団会議、団委員会の機能と役割を記述してください。**  
**② 課題2の隊集会を実施するために、団委員会やその他からどのような支援が必要か、どのように協働するか等について具体的に記述してください。**

- (1) 課題4では、スカウトにより良い活動を提供するために、自分は、団からどのように、またはどのような支援を受けることができるのかを具体的に考えます。そのために、団会議、団委員会の機能と役割を理解します。
- (2) ①は、団会議と団委員会の機能と役割をそれぞれ列挙してください。機能と役割については、「団の運営と団委員会」で詳しく説明しています。
- (3) ②は、課題2の隊集会を実施するために必要と思われる支援を項目立てし、誰から支援を受けるのかを項目ごとに記載してください。

ここでの「誰」は、団関係者のみならず、県連や地区、また地域社会や個人・団体など、あなたや団を取り巻く環境を思い起こし、幅広い視野により考えてください。

**課題5** スカウトを集会に参加させるために自隊で工夫していることを記述して下さい。さらに今後工夫しようと考えていることがあればあわせて記述して下さい。

- (1) 課題5では、これまでのプログラム活動で実際に工夫したこと、今現在工夫していることを確認するとともに、今後さらにどんなことを工夫しようとするのかについて考えます。
- (2) これらをありのままに箇条書きで記述して下さい。

**課題6** プログラム作成において、自身が解決したい問題について列挙して下さい。

- (1) 課題6では、活動プログラムを作成する際において、自分自身に不足していることやもっと知りたいことなどを、知識・技能・心構えに分け、第2教程におけるあなたのニーズを明確にします。
- (2) これらのニーズを  
**知識…… ○○のために○○を理解したい。**  
**技能…… ○○のために○○を身に付けたい。**  
**心構え… ○○のために○○を知りたい。**  
といった書き方で、箇条書きで記述して下さい。

## 「課題研究」の提出方法

- A4判の用紙に横書きで課題毎に記述し、左綴じとしてください。
- 「ウッドバッジ実修所第一教程（課題研究）」に必要な事項を記載し、表紙として下さい。
- 「ウッドバッジ実修所第一教程（課題研究）」には、課題ごとに指導をして下さったトレーナーの役務とお名前、指導・助言の内容を記入しますが、書いていただいても、自分で書いてもどちらでもかまいませんので、担当トレーナーにご相談ください。
- 課題研究の認定はトレーナーです。認定トレーナーの欄に署名をいただくとともに、課題研究と一緒に必ず指導者手帳を提出してください。
- 第2教程の参加申込にあたっては「ウッドバッジ実修所第二教程参加申込書」をその上に付けてください。第2教程の参加申込時には指導者手帳は提出する必要はありません。

各書類の様式は、日本連盟HPの「加盟員情報」→「ダウンロード」→「指導者訓練」のページから最新のものをダウンロードしてください。